

水管理のポイント



水管理のイメージ



移植後から活着期

移植後から幼穂形成期の水管理は、「保温効果」、「雑草の抑制」、「養水分の供給」などの生育・収量や品質に影響を与える重要な役割があります。水稲の生長点が土壌中にあり、「地温」と「水温」から影響を受けやすいので、生育初期は細やかな水管理が必要です。

- ▼田植機で移植する場合、根を切断するので一時的に苗が養水分を吸収できず生育が停滞する“植え痛み”が occurs。田植え後は、すぐに田に水を入れ、やや深水管理をし、すみやかに苗の活着を促します。
- ▼分げつを促進するには、あまり深水にせず、2~3cmの水位が理想的ですが、土壌面が見えない程度に水位を保つように管理します。
- ▼地温を上昇させるための理想的なかん水方法は夕方水を入れ夜間深水、昼間浅水とすることです。いろいろな都合でこのようにできない場合は、夜間または早朝にかん水し、昼間のかん水は避けるのが、水温を早く上昇させるポイントです。長時間かん水は水温の上昇が妨げられ生育を遅らせることになります。
- ▼田植後2週間で還元障害の有無を確認します。

還元障害の症状と対策

初期

- ・下葉が黄色くなります。
- ・分げつが遅くなります。
- ・色が出ません。
- ・田に入るとブクブクと泡が出ます。

- ・軽く干します（5日程度で色が出ます）。
- ・これで色が出なければ、硫酸マグネシウム、畑のカルシウムやマルチサポート2号を10a当たり20kg施用します。

▼足を踏み入れると気泡(ガス)が出る。



重症

- ・全く分げつしません。
- ・下葉に赤い斑点があります。
- ・根張りが悪くなります。

- ・“こじわり”（溝切り）を行い、数日間落水して、土を干します。
- ・硫酸マグネシウム、畑のカルシウムやマルチサポート2号を10a当たり20kg施用します。



移植から活着期の生育は、米品質に大きく左右されます。気象の天気・温度を有効に利用することが重要です。